HOSEI 2017 March

後援会だより

～親子で綴る法政の4年間～

何にでも挑戦できる場

国際文化学部
熊倉 健人

この大学は好きですか。私は好きではありませんでした。

入学当初のことです。同期生との交流が苦手で、大学になじめず、毎日が怖くて、半ば引きこもりの暮らしをしていました。そんな私に学生生活を立て直すチャンスをくれたのも法政大学でした。

一つ目は、SA（スタディ・アブロード・プログラム）でのボストン留学。国際文化学部では海外留学が必修なので、不可避の環境は最大のチャンスでした。語学はもちろん、さまざまな人と交流した経験は、私を大きく成長させてくれました。

二つ目はサークルのアイドルマスター研究会です。同名作品のファンが交流する場を設け、機関誌の発行などを行います。理解を得にくい会ですが、会長として誇りを持って活動できました。マナーを守り、みんなに応援される団体であること。私の思いは後輩たちに受け継がれると信じています。

リービ英雄ゼミでは、文学や翻訳の奥深さに魅了されました。学問の楽しさを再確認させてくださった教授、文学に疎い私を温かく迎えてくれたゼミの皆さんには感謝の念に堪えません。人生とは出会いであることを実感しています。

普段はなかなか言えませんが、この場を借りて両親に感謝を伝えます。いつも支えてくれてありがとうございます。「優秀な学生」とは掛け離れていましたが、自分なりに模索して歩んできた道に誇りを持っています。今、胸を張って法政大学を卒業できることをうれしく思います。

法政大学は好きですか。私は大好きです。

留学中に観光で訪れたニューヨークのタイムズスクエアにて

大学で得た宝

理工学部
新井 七菜子

大学4年間を振り返ると、あっという間でしたが、本当に充実した日々でした。これまでとは違う面から多くのことを学ばせてもらいました。

大学で得た一番の宝は良い人間関係です。多くの人と打ち解けるのがもともと苦手な私が、これほど友達や仲間、教授や先輩の縁に恵まれたのは奇跡だと思っています。今の私には、本気で尊敬し、相手の役に立ちたいと思える友達がたくさんいます。お互いを信頼しているので、思っていることを正直に話せるし、相手の支えになれるなら、どんな話でも聞きたいと思っています。

3年次から所属した佐藤修一研究室での出会いも、私にとって大きな糧になりました。ゼミの有意義な活動を通じて、自分から学ぼうとする姿勢を身に付けることができました。こんな人になりたいと目標に思える先輩方に恵まれ、分からないことを突き詰める探究心や、ストイックであることだけではなく楽しんで学ぶことなど、多くのことを教えられました。

同学年の仲間は、励まし合い、研究がうまくいかない時でもみんなが頑張っているから私も頑張ろうと思える人たちです。熱心に質問に来る後輩たちの姿に刺激を受け、逆に勉強させてもらいました。

大学で出会った人たちとの関係の中で、本気で相手のことを考え、伝えたいことを伝えること、自分から心を開くことを学びました。これから先の人生の糧となる実りの多い4年間でした。

大学生活をいつも支えてくれていた両親にも感謝します。

中央館演習室にて、佐藤修一研究室の仲間たちと

法政大学での4年間

情報科学部
野尻 直生

私は高校生の頃からパソコンやスマートフォンに興味を持ち、将来はIT（情報技術）関係の仕事に就きたいと考えていました。そして、ソフトウエア開発について勉強するために今の学部へ進学しました。

大学では、自分の専攻した分野について学ぶことで知見が広がりました。特に、プログラミングに関する知識や技術は、社会に出てからも大いに役立つと考えています。

将来同じ分野に進もうとしている多くの友との交流は、自分にとって糧になりました。同じ課題に対して、意見を出し合いながら協力して取り組んだことは大変でしたが、とても楽しく有意義でした。

軽音楽部に所属して活動したことも良い思い出です。ギターを趣味として長年続けてきた私にとって、先輩たちの熱意や技術はとても素晴らしく、学ぶこともたくさんありました。ライブでバンドリーダーをしたり、同期の友人以外のともバンドを組んだりした経験から、活動の幅が広がり軽音楽への理解も深まりました。卒業後も活動できるような音楽仲間もできました。

卒業後は、インフラ系のソフトウエアやアプリケーションの開発を主な業務としている企業に就職します。大学で身に付けた知識やスキルを生かせる就職先ですが、今後どうしていくかは自分次第です。スキルアップはもちろんのこと、人をまとめる立場になるかもしれません。有意義な人生にするために大学生活で学んだこと、得たことを武器に頑張っていきます。

軽音楽部のライブでギター演奏

10年間

法学部
加藤 彩乃

大学生活を振り返ってみると、本当にあっという間の4年間でした。1年生から3年生の前半までは、大学入学当初に立てた目標に向かって全力で走り続けました。残念ながら目標は達成できず、自分の進路について、改めて考え始めた3年生の後半。就職をしようと決めて4年生を迎え、夢中で就職活動をした結果、気付けば卒業の季節になっていました。

中学、高校時代は運動部に所属していましたが、大学では新しいことを始めようと、茶道研究会に入部。当初は、茶道特有の独特な世界観になじめず、稽古になかなか参加できずにいました。楽しいと思う以上に、途中で何度も辞めたいと思うほどの苦しい思いもしました。それでも4年間続けることができたのは、ご指導いただいた先生からの「継続は力なり」という言葉と、サークルの仲間たちがいたからでした。

大学では、中学や高校と同じくらい深い人間関係は築けないと思っていました。しかし、自主を求められる大学の、さらに自主性が問われるサークルという組織の中で、つらいことを一緒に乗り越えてきた仲間ができたことは、良い思い出です。

2007年に共学化1期生として、法政中高に入学してから10年。ついに大学を卒業します。中学へ入学する時にとても長く感じた10年は、実際に過ごしてみると早くて濃厚でした。

最後に、法政で過ごしてきた10年間を支えてきてくれたお父さんとお母さんへ。本当にありがとうございました。

靖国神社で開催した「茶道研究会60周年記念茶会」にて

卒業によせて

新井 雅子

特にゼミが始まってからは、本当に充実している様子でしたね。研究に没頭して、時には帰宅が深夜や翌日になってしまうこともあったけれども、打ち込むことがあるのは幸せだと思って見ていました。

そして、クラスの優しい友達、佐藤先生のご指導、尊敬できるゼミのメンバーなど、多くの幸運に恵まれました。以前は少しシャイだったけれども、オープンマインドで、ありのままでいられるようになったのは周りの方々のおかげですね。

今後は、まずは大学院で人のためになれるよう成長できますように。応援しています。

一生の宝物

熊倉 伸也

振り返ると、入学式であなた以上に喜んでいたのは私の方でしたね。卒業を迎えた今では、親として「おめでとう」の言葉を贈れる安堵感と、寂しさもちょっぴり感じています。

初めは大学生活になじめず、心配もしました。けれども、SAプログラムでの海外生活、会長として頑張り抜いたサークル活動、先生や仲間と語り尽くしたゼミなど、成長に欠かせない貴重な経験ができましたね。それは、苦しい時に自分を奮い立たせる「一生の宝物」となるはずです。

ぜひ、この経験を糧に新社会人への一歩を力強く踏み出してください。

「子どもの母校は我が母校」となった日

野尻 政彦

息子の入学とともに、法政大学後援会の役員を拝命しました。行事への参加を重ねるうちに、いつの間にか校歌を歌えるようになり、すっかり「子どもの母校は我が母校」となった4年間でした。ある時には田中優子総長と肩を組んで歌い、明治神宮野球場では応援団と共に何回も歌いました。いい機会を与えてくれた息子には感謝しています。

その息子も、いよいよ卒業です。本人いわく「やりたいことができた充実した4年間」だったそうです。母校の誇りを胸に、大きく羽ばたいてくれることを祈願し、心より「卒業おめでとう」と言いたいですね。

過去から未来へ

加藤 正彦

大学へ向かう桜の並木道を歩いていると、まだあなたが小さかった10年前の春の記憶が思い起こされます。

中学の校舎はまだ工事中だったため、大学の真新しいホールで入学式が行われました。その帰りに、大学の近くで家族そろって記念撮影をしたのも、ついこの間の出来事のようです。

四季の移ろいのように、これからもいろいろなことが起こると思います。社会人となっても、今まで学んできたことを忘れずに、そして新しいことへと挑戦をしていってください。

法政4年間の思い出

理工学部
堀田 修平

富山から上京して過ごした4年間。親元に居てはできない経験をさせてもらいました。特に大変だったのが、一人暮らしです。朝は自分で起きて大学へ行き、夜は洗濯や掃除などの家事をこなす――。慣れないことですぐに大変だと思いました。しかし楽しくもあったのでいつか慣れるだろうと思っていましたが、結局慣れないままでした。

東京の空気に対する免疫がなかったからか、喉を痛めて入院し、両親が駆けつけてくれたことも。一人暮らしの大変さと、家族のありがたみを知りました。今となっては、懐かしい思い出です。

大学生活で一番心に残っているのは、硬式野球部の活動です。理系の学生が集まった野球部で、六大学リーグ戦や、年に一度は東京ドームで試合をするなど、充実した部活動でした。幼い頃にテレビで見た、HOSEIユニフォームを着て明治神宮野球場で活躍する選手は憧れでした。違う舞台ではありますが、HOSEIユニフォームを着てプレーできたことは、言葉に表すことができないほどの喜びでした。3年生の時は、韓国の済州（チェジュ）島でアジア大会が開催され、日の丸を背負ってプレーできたことも、これまでの野球人生で最高の思い出となりました。野球を通して出会えた法政大学、六大学の仲間には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

春からは就職し、新たな一歩を踏み出します。今までお世話になった家族や友人、恩師への感謝の気持ちを忘れず、法政大学で得た経験を生かし、どんな試練も乗り越えて立派な社会人になるよう頑張ります。

東京ドームでの試合

法政大学での4年間

スポーツ健康学部
馬場 みづき

法政大学での4年間は本当にあっという間でしたが、非常に濃いものでした。私は高校時代からスポーツを見るのが好きで、大学に入学したら体育会でマネージャーをすると決めていました。さまざまな部活動の見学に行く中で、激しいタックルとダイナミックなプレーに魅せられ、ラグビー部に入部を決めました。

運動部のマネージャーは初めての経験な上に、ラグビーもあまりなじみのないスポーツだったので、最初は不安でした。しかし、優しい先輩や仲の良い同期、かわいい後輩に恵まれ「リーグ戦優勝」という目標に向かって充実した日々を送ることができました。炎天下や豪雨の日でも、選手と一緒にグラウンドに立って練習をサポートし、1年生の時には寮でおにぎりを100個握っていたのが懐かしい思い出です。最後のリーグ戦では、優勝を果たすことはできませんでしたが、選手の身体を張ったタックルやトライの瞬間は最高にかっこよく、毎試合、感動していました。思い出せば切りがありませんが、どれも大切な思い出です。

学習の面でも、スポーツ健康学部にはさまざまな競技のアスリートと、アスリートを支える人たちがいて、とても刺激を受けていました。先生方や仲間たちに恵まれ、とても良い学生生活だったと思います。

春からは社会人として、新たな環境に踏み込みます。大変なことやつらいことがあると思いますが、4年間の学生生活で経験したこと、学んだことを生かして頑張りたいと思います。

網走で行われた、2016年の夏合宿

自分らしく 感謝を忘れず

堀田 満

卒業、おめでとう。高校から野球一筋で、東京六大学に憧れて「法政に行きたい」と言った時は、本当に合格できるのか心配しました。でも、人一倍の集中力を発揮して見事合格。その時の喜んだ表情は今も忘れません。

4年間の充実した大学生活で多くの経験をしたことで、一回り大きく成長したと思います。親としても、楽しく後援会活動ができ、多くの方々と出会えたことに感謝したいと思います。

これからは、法政で学んだ全ての経験を生かし、何事にも感謝の気持ちを忘れず、目指した道を自分らしく突き進んでください。応援しています。

新たな船出（卒業）

馬場 富親

卒業、そして就職おめでとう。大学での4年間は、とても充実していたと思います。ラグビー部のマネージャーとして、練習や合宿での支援、公式戦での場内アナウンスなどの活動をしてきました。先輩マネージャーから仕事を教わり、後輩にそれを伝えていく。90年を超えるラグビー部の歴史の中ではわずかな時間だったかもしれませんが、しっかりとその足跡を残すことができたと思います。

これからは社会人として、今までとは異なる責任が生じます。自信と自覚を持って歩んでいってください。充実した人生であることを祈ります。

自分を考え、自分を知る

デザイン工学部
三角 景志

私にとって法政大学は、自分を成長させてくれた場所でした。法政の野球部でプレーすることに憧れ、上京して進学することを決意。しかし、いざ入部してみると、野球部のレベルはとても高く、私はチームの隅にいる一部員になっていました。自信を失い、思うようなプレーができず、私生活でも積極性を失った日々を過ごしていました。

しかし、この逆境をバネに多くの成長を遂げることができました。高校までは、慣れ親しんだ地元の仲間の中で、自分の価値観を形成してきました。法政に来て、全国から集まった一流プレーヤーと接し、さまざまな考えとぶつかることで、今までつくり上げた自分の価値観を大きく変えることができました。逆に「ここだけは譲れない」という信念を持っていることも見つけることができました。

そうした大学生活の中で一番に感じたことは、自信を持って行動することの大切さです。自信を持つには裏付けが必要だと思い、いわずとも示せるほど練習や勉強に打ち込みました。私生活を改善し、大学の授業は積極的に参加。ゼミ活動では、ゼミ長も務めました。

学業の時間以外は、全て野球に注ぎ込み、遊んだ思い出はほとんどありません。こうした態度で自信を得たことで、自分の最大パフォーマンスを発揮できるようになりました。その瞬間、やり切ったと本気で思うことができました。今後、社会人となっても自分に自信を付けるために精進を忘れず過ごしていきたいと思います。

最後の野球部全体練習の日、高校からのチームメイト（相馬史也：人間環境学部）と

卒業に寄せて

三角 博志

「法政大学に入学させて良かった」。これが親としての率直な気持ちです。学業と野球の両立は大変だったと思いますが、法政大学という素晴らしい環境の中で学べたことは、これからの人生を支える糧となることでしょう。お世話になった皆さん全てに感謝の気持ちを忘れず、しっかりと先を見つめて進んでください。

故郷の宮崎県に戻って就職する決断をしましたが、法政で学んだ広い視野を持って、さまざまなことに果敢に挑戦してほしいと思います。

今しかできないこと

現代福祉学部
守山 千佳子

大学生活は、人生で最も充実し、たくさんの人に感謝した4年間でした。それは、一番夢中になれた「よさこい」サークルでの経験と思い出のおかげです。

入学当初、まだ何をしたいか決まっていなかった頃に偶然見かけた先輩方が踊る姿。その笑顔に一目惚れして、よさこいサークルに入りました。それから、私の大学生活が色付き始めました。

よさこいを始めた1年目は、週に1度の練習も、全国各地で行われているお祭りに出向いてお客さんの前で踊りを披露することも、何もかもが新鮮で楽しかった、あの時に得た感動は忘れられません。

初めての後輩ができた2年目は、チームを運営する役職に就き、仲間に支えられながら、チームのことを考えながら行動するようになりました。

最高学年となる3年目は引退を目前に、これまでチームとよさこいに関わってきた自分を見直し、後輩に何が伝えられるかを考え、最後までやりたいことをやり、突っ走りました。その集大成として、町田市で行われたよさこい祭りで、準大賞を受賞することができました。

ですが、より大切なのは、この結果よりも、約2年半の月日に刻まれた仲間とのかけがえのない思い出でした。「今しかできないこと」を全力でやってきたこの経験は、一生の宝です。

こんな充実した学生生活を送れたのは、これまで出会った方々と、そばで支え続けてくれた両親のおかげです。心から感謝しています。

彩夏祭にて（埼玉県朝霞市）

法政での学びを糧にして

守山 千春

卒業、本当におめでとう。あっという間の4年間でしたね。入学当初は、どんな大学生活になるか少し心配でしたが、それはすぐに払拭されました。興味本位で入った、よさこいのサークルでしたが、すぐのめり込みましたね。全国各地のお祭りで披露されるあなたの演舞を観に行って、とても楽しかったです。

ゼミとの両立で大変な時期もありましたが、全ての経験はこれからの人生の糧になると信じています。社会人になっても頑張ってください。